

166  
608

普同  
教會  
吉祥講朝昏課誦

溫島利定法師序

聞天書院發行

019403-000-3

特15-77

吉祥講朝昏課誦

伊東 洋二郎 / 編

M28.4

ABG-0105





吉祥講創立を首唱し及此講の事に轉徒盡力さる、諸君は所謂護法  
扶宗の大擅那として崇敬せざる可らざる所の人々とす此れ等諸君  
乃氏名馬んを録して不朽に傳ふる所なきを得んや茲に於てか其緒  
君の氏名汝卷末に列記し以て千古に遺す庶幾くは後世諸君乃氏名  
と其篤志とを進懐して護法扶宗乃精進益猛なる者を出しむるに至  
らん」と云

曹洞 吉祥講朝昏課誦序

佛祖嫡傳の正宗は我曹洞宗にして、其教旨とする所は佛  
教の萬の法藏を囊括して、直に佛智見を開發し、一大事因  
縁を究盡せしむるにあり、一大事因縁とは何ぞや、曰く他  
なし、教理行果信解證入各自受用の三摩地是れなり、而し  
て此れを平易に綴すれば、結縁の義に當る、抑も結縁とは  
未來成佛の因縁を結了するにある事は、既に高祖大師の  
像未遑運は唯結縁を貴むと仰せられしを以て証すべき  
に非ずや、結縁を貴まんとせば、則ち禮佛問法して深く其  
信根に培はざるを得ず、而して其信は教導を以て所依と  
爲し、覺道は信を以て能入と爲せり、焉ぞ講社を設けて能  
入所以を均一にする方法なきを得んや、名古屋市に於る



我洞門の擅信徒諸子等巽に吉祥講を創設し、越大本山貫首不老閣大禪師を招請し、盛んなる發講式を行へしに、大禪師の善巧攝化、能く三宗二木も一地の榮に飯し、邪種鈍芽も一雨の潤を被らしめらる、爾後斯講の益々盛んなるもの豈に偶然ならんや、斯講員の爲めに頃日伊東洋二郎氏朝昏課誦の梓行を討らんと欲し、禘に序を需む、禘仍て其稿を見るに吉祥講員が常に禮佛護戒を資するに關く可らざるもの載せて洩すなし、寔に斯講員の通範として珍重すべきの書なり、禘乃ち隨喜に堪へ、所思を綴りて、卷首に叙すと云爾

明治廿八年四月 越大本山監院 上野瓶城 識

曹洞朝昏課誦序

一大事因縁は各自安心立命の繋る所にして、切に佛祖の加被を仰き速に人の人たる本懐を達するを我祖門の人と謂ふべし、名古屋市に在る我宗の擅信者諸氏の曾て吉祥講を設置されたる所以のもの、亦た佛祖の加被を仰きて其本懐を達せんと欲するの意に外ならず、其志や亦た篤しと賞すし、頃者伊東遊窓本書を纂輯し、序を予に請ふ、願みれば曩に吉祥講開講式の當日、永平大本山森田貫首猗下該講の招請に依り、大光院に在せられ、遊窓も亦た來る、予乃ち遊窓を引て猗下に講せしむ、猗下の高徳深慈なる、遊窓の爲めに諄々説かせらる、こと數時間矣、遊窓感激して去る、後數月を経て予偶々遊窓に遭ふ、時に遊窓は



予に曩日の事を語り、且つ猥下が應機接物の善巧方便を以て攝化の妙ある事より、長者の舉手下足は固なり小人劣機の窺ひ知るべき所にあらざる事等を以てし眞に感激せしもの、如し思ふに蓮窓の斯書の纂輯あるものは蓋し猥下攝化の因縁ならんのみ、而して斯書の中に出る所のもの皆な吉祥講員が朝昏禮佛の規軌にして、暫くも無かる可らざるものに係る、然らば則ち斯書一世せば、吉祥講員に一大事因縁を結成せしむるの功徳あるや豈に何ぞ尠なしとせんや、予仍て一言を卷首に題す

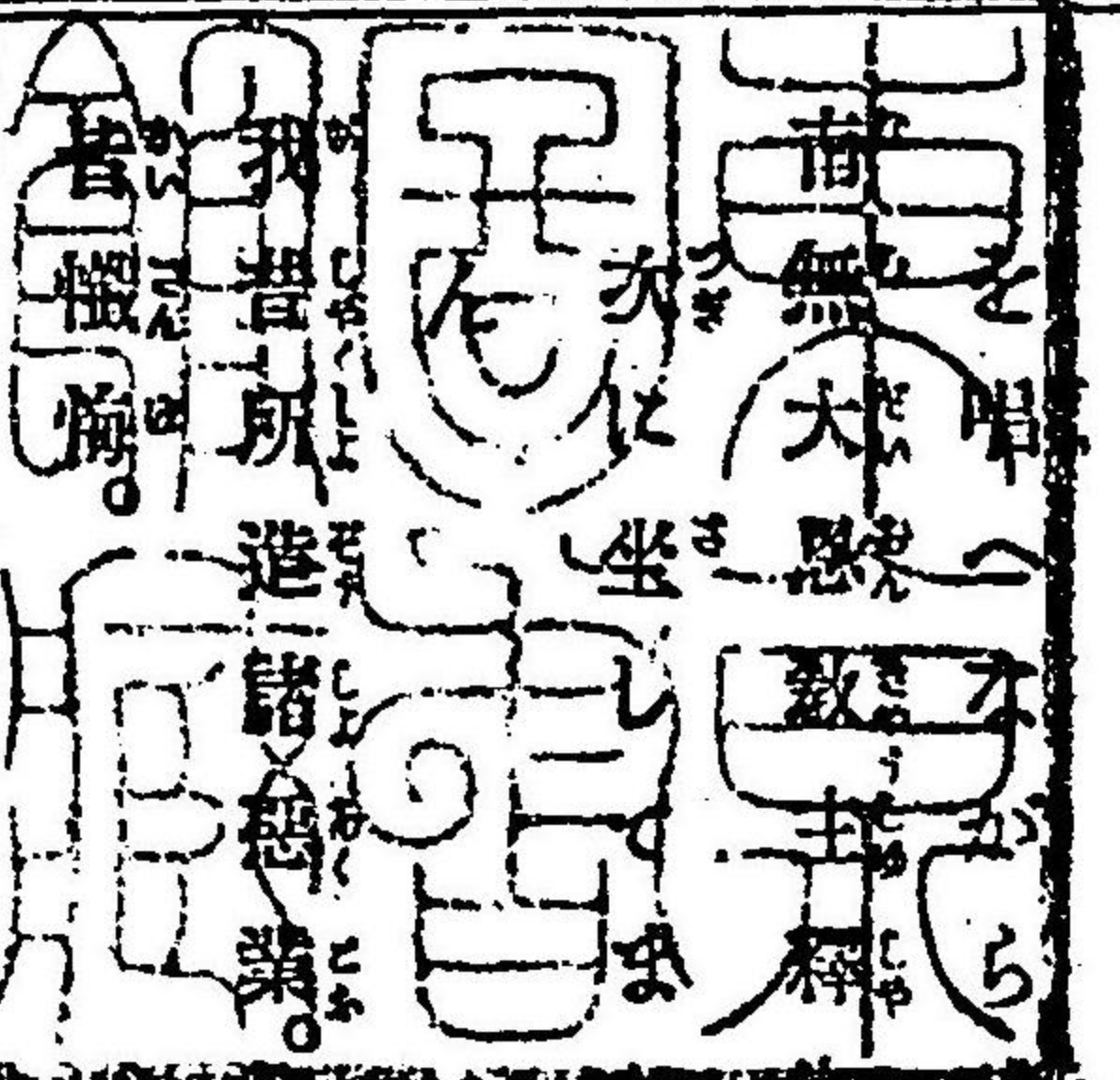
愛知縣第一號曹洞宗務取締

温嶽耕堂 讀

○曹洞 會 吉祥講 朝昏課誦

伊東洋二郎 撰

毎日朝夕御佛壇にまづ燈明線香等を供じ合掌して佛名



前無大恩教主釋迦牟尼佛。三唱三拜  
 合掌し一心に懺悔の文を誦すると三へ  
 由無始貪瞋痴。從身口意之所生。一切我今

次に三歸戒文

弟子某甲。盡未來際。歸依佛。歸依法。歸依僧。

次に小聲を鳴し心のみたれぬよふに氣息をと、のへて



般若心經を誦みて回向すべし  
摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩。行深般若波羅蜜多時。照見五蘊皆空。度一切苦厄。  
舍利子。色不異空。空不異色。色即是空。空即是色。受想行識。亦復  
如是。舍利子。是諸法空相。不生不滅。不垢不淨。不增不減。是故空  
中。無色無受。想行識。無眼耳鼻舌身意。無色聲香味觸法。無眼界。  
乃至無意識界。無無明亦無無明盡。乃至無老死亦無老死盡。無  
苦集滅道。無智亦無得。以無所得故。菩提薩埵。依般若波羅蜜多  
故。心無罣礙。無罣礙故。無有恐怖。遠離一切顛倒夢想。究竟涅槃。  
三世諸佛。依般若波羅蜜多故。得阿耨多羅三藐三菩提。故知般若  
波羅蜜多。是大神呪。是大明呪。是無上呪。是無等等呪。能除一  
切苦。真實不虛。故說般若波羅蜜多呪。即說呪曰。揭諦揭諦。波羅  
揭諦。波羅僧揭諦。菩提薩埵。般若心經。

揭諦。波羅僧揭諦。菩提薩埵。般若心經。

上來般若心經を誦誦し集むる處の修勳は本師釋迦牟尼佛  
盡十方法界一切三寶三國傳燈歷代祖師に回向し上四恩に  
報ひ下三有に資し法界の含識と同一く種智を圓かにせん  
ことと十方三世一切佛……

大悲圓滿無碍神呪

南無喝囉怛那哆羅夜耶。南無阿唎耶。婆盧羯帝。鉢囉耶。菩提  
薩埵。婆耶。摩訶薩。娑耶。摩訶訶。迦囉尼迦耶。唵。薩。喃。囉。訶。曳。歐。但  
那。但。寫。南。無。悉。吉。唎。埵。伊。蒙。阿。唎。耶。婆。盧。吉。帝。室。佛。囉。榜。駄。婆。南  
無。那。囉。謹。墀。醯。唎。摩。訶。喃。唎。囉。沙。咩。薩。婆。阿。他。豆。輸。朋。阿。遊。孕。薩。婆  
薩。哆。那。摩。婆。伽。摩。訶。特。豆。但。姪。他。唵。阿。婆。盧。醯。盧。訶。帝。迦。羅。帝。夷  
醯。唎。摩。訶。菩。提。薩。埵。薩。婆。薩。婆。囉。摩。囉。摩。醯。摩。醯。唎。唎。馱。孕。俱。盧。







南無大慈大悲救苦觀世音菩薩 南無啓教阿難尊者 三返

招請發願文

是諸衆等。發心奉持。一器淨食。普施十方。窮盡虛空。周遍法界。微塵刹中。所有國土。一切餓鬼。先亡久遠。山川地土。乃至曠野。諸鬼神等。請來集此。我今悲愍。普施汝食。願汝各各受我此食。轉將供養。盡虛空界。諸佛及聖。一切有情。汝與有情。普皆飽滿。亦願汝身。乘此呪食。離苦解脫。生天受樂。十方淨土。隨意遊往。發菩提心。行菩提道。當來作佛。永莫退轉。前得道者。誓相度脫。又願汝等。晝夜恒常。擁護於我。願我願施。此食所生功德。普將廻施法界。有情與諸有情。平等共有。共諸有情。同將此福。盡將廻向。眞如法界。無上菩提。一切智智。願速成佛。勿招餘果。若爲薦込。此加戒名。願乘此法。疾得成佛。

雲集鬼神招請陀羅尼

發謨步布哩。迦哩多哩。怛他藥多也。七返

破地獄門開咽喉陀羅尼

唵。步布帝哩。迦多哩。怛他藥多也。

無量威德自在光明加持飲食陀羅尼

毘莫薩。嚩。怛。佉。藥。多。嚩。嚩。吉。帝。唵。三。婆。羅。三。婆。羅。吽。七返

蒙甘露法味陀羅尼

毘。莫。蘇。嚩。嚩。也。怛。佉。藥。多。也。怛。佉。也。佉。唵。蘇。嚩。嚩。鉢。羅。蘇。嚩。鉢。羅。蘇。嚩。嚩。摩。七返

毘盧遮那一字心水輪觀陀羅尼

毘。莫。三。滿。多。沒。駄。南。文。錢。廿一返

五如來寶號召請陀羅尼

五。如。來。寶。號。召。請。陀。羅。尼。



南無多寶如來 毘謨薄伽梵帝鉢囉步多囉怛曇也怛他藥多  
 也 除慳貪業福智圓滿  
 南無妙色身如來 毘謨薄伽梵帝蘇嚧波耶怛佉藥多也 破  
 醜陋形圓滿相好  
 南無甘露王如來 毘謨薄伽梵帝阿室唎帝囉惹耶怛他藥多  
 也 灌法身心令受快樂  
 南無廣博身如來 毘謨婆伽梵帝尾布邏藥怛羅耶怛佉藥多  
 也 因侯廣大飲食充飽  
 南無離怖畏如來 毘謨婆伽梵帝阿婆演迦羅耶怛佉藥多也  
 恐怖悉除離餓鬼趣三返  
 發菩提心陀羅尼  
 掩胃地即夜母怛波那野迷七返

⑩ 授菩薩三摩耶戒陀羅尼  
 掩三昧耶薩坦綏廿二返  
 ⑪ 大寶樓閣善住秘密陀羅尼  
 囊莫薩嚧怛他藥多南掩尾補囉藥陸麼拈鉢囉陸怛佉多備捺  
 捨寧摩拈摩拈蘇鉢囉陸尾麼黎娑藥囉儼鼻瞿畔入嚧囉入  
 嚧囉沒駄尾盧枳帝罽四夜地瑟恥多藥陸娑縛訶掩麼拈嚧日  
 哩畔  
 掩麼拈駄哩畔泮咤三返  
 ⑫ 諸佛光明灌頂陀羅尼  
 掩阿暮伽癡嚧者那麼訶祿捺囉麼拈鉢頭麼入嚧囉跋囉利  
 囉野舒七返  
 次に四弘誓願



衆生無邊誓願度。煩惱無盡誓願斷。法門無量誓願學。佛道無上誓願成。

(注意)以上ノ經呪法式ヲ朝昏兩課ニ分チテ判明ナラシムレバ左ノ如クナルナリ

○朝課

- 一佛前焼香 三拜
- 一懺悔文 本尊回向
- 一三歸戒文 祖師回向
- 一般若心經 家門繁昌回向
- 一大悲神呪 毎朝一章ツ、
- 一消災神呪
- 一修證義
- 一四句誓願文

右了テ 三拜

○晚課

- 一佛前焼香 三拜
- 一懺悔文
- 一三歸戒文
- 一大悲呪又ハ甘露門 先祖代々回向
- 一修證義 每晚一章ツ、
- 一四句誓願文

右了テ 三拜

○吉詳講朝昏課誦跋

夜來ノ風號雪來モ頓ニ化シテ、威海灣上風波穩カニ、帆檣林ノ如ク煤烟天ヲ焦シ、旭章旗高ク掲クル無數ノ軍艦運送船ヲ以テ劉公島ヲ襲ヒテ、電奔雷馳ノ勢ヲ憩ヒツ、アリ、北胡燕趙ノ野ニハ我幾萬ノ貔貅ガ龍鬪虎搏ノ疲レテ慰シツ、アリ、此時第六師團長黒木中將ハ、祈ニ向フテ士卒ニ法話スベキヲ命ゼラル、乃チ祈其命ニ應ワテ指定ノ處ニ到レハ全國肅トシテ聲ナキ處、祈一クビ舌ヲ鼓シ出セバ勇猛鬼ヲモ挫クベキ士卒ハ碧血淋漓タル戰袍ニ感泣ノ熱涙ヲ潑キ、嗚咽飲泣シテ皆曰ク一死以テ君國ニ殉スルハ軍人ノ名譽ナリト、而シテ此感嘆ノ言句ハ誠ニ其士卒ガ赤衷ヨリ出ツ、是レ我高祖ノ「生を明らかに死を明らかにするは佛家一大事の因



縁ト宜ハセシ金口ニ契フモノトシテ、祔ハ我佛敎ノ威化力  
 鏡キチ知レリ、法話畢リテ司令部ニ歸レバ、伊東洋二郎氏ノ  
 厂音ニ接ス、其要ハ吉詳講朝昏課誦ノ跋ヲ祔ニ徵スルナリ、  
 氏此殊勝ノ舉アルヲ聞ク祔豈ニ不文ノ故ヲ以テ其請ヒテ  
 辭スルヲ得ンヤ、佛道ノ要旨ハ修証ナリ、行持報恩ニ回向シ、  
 証ヲ修ノ内ニ求メシメント欲セバ朝昏課誦ノ書無クハア  
 ル可ラズ、祔ハ氏ノ企舉ヲ隨喜ニ堪ヘズ聊カ所懐ヲ述テ跋  
 ト爲ス

明治廿八年三月上旬新占領地榮城縣ニ於テ故大寺將軍ノ  
 三七忌法會ヲ執行セシ翌日

佐々木珍龍識

○吉祥講朝昏課誦跋

眼に入る荒秦古殿の秋、歳華遷謝して人の修する没し、夜深  
 くして静に風颯の語を聴けば、擅那の點頭せざるを罵るに  
 似たり。是れ虚堂録の廢寺の偈、苟くも寺門の擅那たる  
 者、豈に此の如く冷淡浮薄にして可ならんや、宜しく施財護  
 寺して擅那たる其實を彰はすべきのみ、我名古屋市の紳商  
 長谷川太兵衛、吹原九郎右衛門、大澤重兵衛、森本善七諸君等  
 は我曹洞宗と夙縁深厚にして、從來扶宗護寺の事に最も能  
 く誠心を抽んせられし事は、人々の能く知る所、其名古屋吉  
 祥講の如きは、即ち諸君が一宗萬世の大擅越たらんとして  
 組織されし一事業なるを見るべきにあらずや、嗚呼諸君が  
 扶宗護寺の志も亦篤しと謂ふ可し、斯く諸君の扶宗護寺に  
 篤志なるは、彼の雲州太守が我宗の高祖に擅那として、其吉



祥山の教澤を六百年後の尙ほ今日に潤すものと何ぞ多く  
 譲らんや、釋尊祇園の化儀三千年後に宣傳するを得る處以  
 のものは實に波斯匿王家の外護なり、諸君の扶宗護寺に篤  
 志なるは波斯匿王家が能く釋尊を外護したると甚だしき  
 徑廷なし、我宗萬世の大擅越、諸君にあらすして其れ誰ぞ、伊  
 東洋二郎君、吉祥講朝昏課誦を作り公行して以て汎く我宗  
 義を世人に扶植するあらんとし、遠く書を余が遠征地先き  
 に寄せて跋を徴する、余豈に深く君の篤志を感ずると同時  
 に從來扶宗護寺に篤志なる長谷川、吹原、大澤、森本諸君等  
 組織されたる吉祥講の益々盛大ならん事を冀望して止ま  
 さらんや、乃ち余は思ふ處を勿々に記して以て伊東君に隨  
 喜の意を表す

明治廿八年三月十五日

於北清海城大日本帝國第一軍第三師團司令部

從軍僧 水野道秀 記

世 諸 人 諸 君

(伊勢町)丹羽善兵衛君、水野理兵衛君(鶴重町)近藤嘉七君、小崎長次郎君(小田原町)高  
 木勘七君、富田鐵次郎君(神樂町)水野伊助君、河村武七君、伊藤治左衛門君、石黒榊太  
 郎君(江川町)三輪萬助君、鈴木光重君(東田町)伊藤小八君、廣瀬邦秀君、谷口松藏君、  
 新貝嘉治君、小林平吉君(大曾根)高桑芳太郎君、大脇吉兵衛君、水野長兵衛君、水野軍  
 次郎君、水野竹藏君、山本喜兵衛君、石黒金次郎君(押切)加藤佐助君、金島佐助君(新  
 柳町)餘吾太吉君、守隨鐘三郎君(七間町)河津市藏君、柴田大助君、佐々木嘉吉君(鐵  
 砲町)西村善平君、林清助君(針屋町)岩井源助君(南園町)藤野梅之助君、加藤嘉兵衛  
 君、津田新兵衛君(西萬町)濱島新七君、久野伊三郎君(東萬町)曾川つね君、淺野彌七  
 君(正木町)丹羽甚九郎君、加藤藤助君、飯田信定君、鬼頭久兵衛君、佐藤八兵衛君(禰  
 宜町)加藤爲吉君、淺田長兵衛君、前島彌八君、都築孫助君、柴田仙之助君(東魚町)柴  
 山清兵衛君(武平町)服部國次郎君(東門前町)下山桂次郎君、岩井長三郎君(相生町)



松下兵治君(花車町)水野治左衛門君、松卜まつ君、佐出鏡太郎君(仲ノ町)櫻木新之丞  
 君(西瓦町)尾關以義君(東瓦町)内藤定吉君(大津町)山崎藤次郎君(八百屋町)長谷川  
 竹次郎君、近藤義門君、石塚無佛君(春日町)渡邊正中君(梅川町)早瀬兼吉君(飴屋町)  
 堀田安善君(下前津)宮地清祐君(水主町)鈴木甚助君(赤塚町)大島善右衛門君(七小町)  
 田中清兵衛君(奥田町)加藤仙太郎君(手代町)梅村萬藏君(長塚町)井上鎮次君(萱屋  
 町)平野金兵衛君(筒井町)加藤竹藏君(東桶町)加藤清左衛門君(旅籠町)社本平藏君、  
 松井彌兵衛君(日置町)林平助君、横井清太郎君(蛭子町)外山吉兵衛君(門前町)早川  
 德三郎君、庄林一正君、神谷重兵衛君、加藤庄兵衛君(裏門前町)鷲津磯八君、大原政助  
 君(東桶町)加藤清右衛門君(伊勢町)伊藤勘藏君、鬼頭定吉君、青山善助君(古渡町)  
 鈴木鉦太郎君、澤田鶴三郎君、鈴木理助君、伊藤松兵衛君、鈴木孫助君、鈴木善兵衛君、  
 林久七君、今井甚三郎君、佐藤又右衛門君、櫻木木三郎君(下園町)戸田武太郎君、伊藤  
 松藏君、梶原文太郎君(流川町)青山善七君(馬喰町)長谷川長七君(泥町)大橋銀三郎

君(皆戸町)船橋民次郎君、古田孫三郎君、古田富次郎君(和泉町)柴田儀兵衛君(出來町)  
 鈴木甚五郎君、大澤榮三郎君、岩田清助君(長嶋町)富田兵藏君(杉ノ町)長嶋町角(餘吾彌  
 八君(嵩町)小川孤將君(東洲崎町)荒川治平君、鈴木秀三郎君(天王崎)増田外次郎君、海  
 波富次郎君(新尾頭)伴野直君、花井甚九郎君、上田久七君、丹羽庄太郎君(尾頭)山口傳  
 藏君(島田町)高田梅次郎君(熱田白鳥)伊藤清九郎君(枇杷島六間)石黒太吉君(末廣町)  
 村上庄藏君(住吉町)山田市左衛門君(南吳服町)藤本市兵衛君(日出町)柴田庄兵衛君  
 、三浦吉藏君(玉屋町)松林松次郎君(石町)佐藤周助君、小本嘉助君(鍋屋町)市川佐吉  
 君、水野平藏君(旭廓)星野幸吉君、鶴飼字吉君、天野雄之助君、森田平太郎君(小市場町)  
 加藤庄兵衛君、谷彦七君(矢場町)杉本喜三郎君、服部新兵衛君、渡邊代次郎君、德田治右  
 衛門君(駿河町)高橋三之助君(山口町)水野孫七君(高岳町)森田金兵衛君(南桑名町)美濃  
 輪與三郎君(宮町)柴田源七(淺間町)佐藤竹次郎君(傳馬橋裏)森米太郎君(東本重町)廣江  
 治平君(本町)櫻丁角(津内)大吉君(下長者町)岡崎惣七君、中山米次郎君(二杓松原町)山田



長藏(天守組)永田秋盈(神樂町)寺島虎之助(石神堂町)高井市三郎君(地藏堂監守)嶋飼戒心(釋迦堂)川瀬定光尼(淨心觀音堂)爲念尼

會計掛

古渡町

津田理三郎君

同町

勝野善八君

同町

永田甚藏君

吳服町

久松丈助君

鶴重町

勝野吉藏君

澤井町

鈴木半七君

彌豆町

堀内茂右衛門君

傳馬町

横井半三郎君

門前町

永田平七君

鐵砲町

岡本治助君

下長者町

服部卯助君

幹事

東瓦町威音院

石川活龍君

寶町禪芳寺

門田大英君

押切町周泉寺

大野佛元君

大曾根關貞寺

河田蘊瑞君

熱田新尾頭陽泉寺

畑中貫禪君

矢場三ノ切萬年寺

伊藤契禪君

同町永昌院

河村道麟君

中ノ町永林寺

野々口悅苗君

宮出町曹流寺

瀧聰雨君

同町廣德寺

安藤玉龍君

松山町就梅院

前田鐵柱君

同町聚福院

安井桂慶君

裏門前町龍雲寺

勝川補道君

同町金仙寺

福田眞定君

同町久寶寺

田中雪嶺君

同町功德院

岩山臥龍君

裏門前町功德院

伴龍舟君

同町建昌寺

敦賀玉仙君

同町寶泉院

宇野品覺君

門前町全香寺

村上玉香君

門前町安用寺

羽柴達玄君

同町陽秀院

橘孝範君

前津長松院

松浦祖英君

古渡町東海寺

齊木啓法君

同町傳昌寺

大洲泰禪君

白川町大運寺

小笠原玄鑑君

枇杷島清音寺

近藤錦洲君

西春金城村東寒寺

片野舟江君



同村觀音寺	淺井無提君	同村西來寺	堀田倍算君
同村安條寺	田中惟光君	同村林泉寺	松本光岳君
同村靈源寺	後藤默定君	西春杉村心入寺	内匠靈瑞君
同村普光寺	傳泰賢君	西春六鄉村成福寺	水野曉山君
愛知郡鷹場村菊泉寺	朴我碩鼎君	納屋裏光明院	佐藤祥鳳君
首唱者			
玉屋町	白石半助君	同町	平子徳右衛門君
傳馬町	西川字吉郎君	木挽町	鈴木惣兵衛君
鐵砲町	森本善七君	同町	大澤重右衛門君
東萬町	花井八郎右衛門君	小舟町	長谷川太兵衛君
和泉町	吹原九郎三郎君		
講長	門前町大光院	龍桑	蕨師

明治廿八年四月一日印刷  
同年 同月七日發行

定價金四錢

版權所有

撰者及  
發行者

愛知縣名古屋市長門前町  
四百九十五番戶

伊東洋二郎

全縣全市伏見町三十三番戶  
愛都社

印刷者

吉田源次郎



